

初めて教壇に立ってから今年で節目の10年目。現任校では音楽専科として4年生以上、約400名の児童と共に学んでいる。

音楽の「美しさ」や「楽しさ」とは何か考えたり悩んだりしながら取り組む毎日である。

1 音楽を楽しむ心

音楽の時数は決して多くない。限られた時間の中でより充実した一時間にしていきたい。まず考えたのは、最低限身に付けさせたいことは何だろう、ということである。私が何より身に付けさせたいのは「音楽を楽しむ心」である。

本校では、小中合同音楽会に4年生が参加する。明るく素直な歌声で、指導していても楽しくなる学年である。しかし、中には「歌わされている」児童もいる。自ら歌う児童に育てたい。そこで今年は一曲は輪唱の曲を選曲した。

元になるのはどのパートも同じふし。そのふしを重ねることで生まれるハーモニーの美しさ、面白さを味わわせ、進んで楽しむ気持ちを育てようと考えた。

言葉も平易ですぐに覚えられた。気が付くと音が重なっていて何だかおもしろい。歌っている児童の顔がどんどん笑顔になっていく。楽しくなってくると、少し難しいことに

授 業 散 歩

心豊かな 音楽づくり



桜区 栄和小学校
教諭

野 津 さやか

も挑戦する意欲がわく。

反省点もある。他校の演奏を聴き、響きの美しさに感動した。響きの美しさはやはり、日々の授業での指導の積み重ねであり、その曲だけではできない根気のいるものである。「もう一回歌いたい!」という楽しさを味わった児童や「5年生ってすごいね」とあこがれをもった児童とともに今度は「美しさ」という目標に向かって新たな一歩である。

2 やり遂げる喜び

「花と歌と愛にあふれた学校」というのが本校のスロー

ガンである。

朝の会の時間になると、あちこちから「今月のうた」がきこえてくる。10月のうたは、校内音楽会の全員合唱「カリブ夢の旅」である。全員合唱で金管バンドの伴奏に乗せて歌いたいと考え、金管バンドでは昨年度から取り組み、準備していた曲である。夢のある歌詞に、低学年にも好評。放送委員会も昼の放送で自然と多く流してくれ、校内音楽会に向けて気分が高まった。

校内音楽会では各学年が工夫を凝らした演奏をする。私の力が入るのはやはり最高学年6年生である。最上級生を「すごい」と思わせたい。聴き映えのする曲は教科書の曲より難しい。そこで立ち返るのが「最低限身に付けさせたいことは何だろう」というところである。

取り組んだ合奏「スターウォーズ」で、難しいリズムは、リズムに合う日本語に置き換えて唱えたり、コンピュータを活用し、色々な速さで曲を聴いたりして覚えた。おかげで、多少難しい部分も楽しく克服することができた。

演奏が終わった後の一瞬の静寂。6年生の間にやり遂げた満足感が広がった。

今後も音楽の「美しさ」や「楽しさ」とは何か、考え続けながら、児童とともに感動を味わっていきたい。

(のつ さやか)